

君津中央病院広報誌
クローバー



Clover

Vol. 19

2010年10月発行

編集・発行

君津中央病院

☎0438 (36)1071

<http://www.hospital.kisarazu.chiba.jp>



理念

私たちは良質で安全な医療を提供し
地域の皆さまに親しまれ、
信頼される病院をめざします。



認定第JC295-2号
審査体制区分4(ver.5.0)
2009.08.23~2014.08.22

日本医療機能評価機構とは、市民が適切で質の高い医療を安心して享受できるよう、医療機関の機能を学術的観点から評価する第三者機関です。

基本方針

- 1 接遇とサービスに心がけ、心が安らぐ癒しの環境を整えます。
- 2 高度で良質なわかりやすい医療を提供します。
- 3 包括医療を実践し、地域との連携を大切にします。
- 4 救命救急医療体制の確立と小児、周産期及び終末期医療の充実をめざします。
- 5 職員の教育・研修を推進し、自己研鑽に努めます。
- 6 病院で働く人が一体となり、経営の健全化と満足感のある職場をめざします。

田中副院長が日本骨折治療学会の学会長を務める



第36回日本骨折治療学会が平成22年7月2日、3日の2日間にわたって千葉市の幕張メッセで開催されました。日本骨折治療学会は、骨・関節の外傷やこれらに関連するいろいろな問題を研究し、その進歩、発展を図ることを目的とした整形外科医・救急外科医の集まりで、現在3,500名以上の会員が所属する非常に大きく、活気のある医学会です。その学会の学会長を、この分野では日本のみならず世界的にも名前の知られている当院の田中正副院長が拝命し、先日成功裡のうちにその大役を果たしました。同学会では、海外から10名以上の著名な外科医を招いて、招待講演やパネルディスカッション、シンポジウムで最新の知見を紹介してもらうとともに、日本全国から1,400名以上の医師が参加して、外傷・骨折治療についてさまざまな角度から問題点や解決法を探りました。

今回は学会のテーマを「脆弱性骨折への挑戦」として、いま世界中で問題となっている骨粗しょう症を持つ高齢者の骨折にどのような治療戦略を立てていく

か、国内外の第一線で働く医師が一堂に集まり最先端の治療法について熱い議論を戦わしました。特に、今後未曾有の高齢化社会を迎えるに当たり、時期を得たトピックスとして、参加した整形外科・救急外科医たちが熱心に討議していたことが印象的でした。

君津中央病院は内房地区の基幹病院として、地域の皆さまのために3次救急を含む急性期医療を担っております。この度の田中副院長の同学会長拝命は、当院の医療レベルが日本全国に認められているあかしといえます。これからも単に日常診療に追われるだけでなく、先端医療・高度医療の提供も目指して、さらに全国レベルの病院にすべく職員一同努力していくつもりですので、今後とも皆さまの暖かいご支援をお願い申し上げます。



熱い論争が繰り広げられたシンポジウム

九都県市合同防災訓練千葉県会場訓練に参加

九都県市合同防災訓練は今年で31回目を迎えました。この訓練は地震を中心とする大災害の被害を最小限に食いとめるため、官民一体となり今後の防災対策の充実、強化を図り、県民が安全かつ安心な生活を確保するための訓練です。今年の千葉県の担当市は君津市。小糸川漁港隣接地を主会場として、住民による初期対応訓練をはじめ、関係諸団体の広域応援訓練、救出、救護訓練が行われました。また、海ほたる会場では東京湾アクアラインからの救出、救護訓練および東京湾に派遣された海上保安庁の巡視艇や海上自衛隊の艦船からなる洋上医療拠点の運用訓練が行われました。

当院からは主会場へDAMT1隊が派遣され、災害現場に最初に到着し、医療拠点を確立する統括DMATとして活躍したほか、看護協会チームとして看護師1名、医師会チームとして医師3名が参加しました。海ほたる会場ではドクターヘリで派遣されたもう1隊の当院DMATがトリアージエリアを速やかに立ち上げ、トリアージと応急処置を行いました。ドクターヘリは、双方の会

場でトリアージされた重症例を海上医療拠点まで搬送し、その機動性をアピールしました。炎



天下、4時間におよぶ過酷な訓練が陸や海で展開されました。

参加された皆様、暑いなか、本当にご苦労様でした。
(救急集中治療科 北村 伸哉)



病気のおはなし

COPD

◆ COPD とは？

COPD とは 英 語 の Chronic Obstructive Pulmonary Disease (和訳すると「慢性閉塞性肺疾患」) の頭文字からとったものです。以前から肺気腫や慢性気管支炎といわれていた疾患がまとめてこのように呼ばれるようになりました。

非喫煙者でも COPD になる人はいますが、COPD 患者の 90% は喫煙者であり、たばこが COPD の大きな原因であることは間違いないでしょう。また有毒ガスなどの大気汚染物質も COPD の原因となりえます。

鼻や口から吸い込まれた空気は気管、気管支、細気管支と細かく枝分かれした管の中を通って最終的に肺胞と呼ばれる袋状の組織に至ります。たばこの煙や有毒ガスに長期間さらされているとこれらの経路に慢性的な炎症がおり、肺胞が破壊され肺がスカスカになっていきます。これが「肺気腫」と呼ばれる状態です。一度破壊された肺胞は元に戻ることはありませんので早期の対策が重要です。また比較的太い気管支の炎症が続くと「慢性気管支炎」となり長期の咳や痰に悩まされることになります。

COPD では気管支内腔が狭くなったりつぶれやすくなったりしているため、息が吐きにくくなり呼吸困難を生じます。病状がさらに進行すると呼吸不全や心不全による死を迎えることになります。

◆ COPD の症状

以下のチェックリストで 3 項目以上当てはまる人は COPD の可能性ありと考えられます。

- ・ 40 歳以上である
- ・ 現在たばこを吸っている、または以前吸っていた
- ・ 風邪でもないのに咳が出る
- ・ 風邪でもないのに痰が出る
- ・ 同年代の人に比べて息切れしやすい

ただ貧血や心不全などでも息切れをきたすことはあるためそれらを区別することは重要です。また COPD の人は感染などをきっかけに急に症状が悪化することがあり(急性増悪)注意が必要です。肺と心臓はつながっているため

心臓にも負担がかかって右心不全となりむくみが生じることもあります。さらに呼吸にエネルギーを使うため次第にやせてくるなど全身的な症状も出現します。

◆ COPD の診断

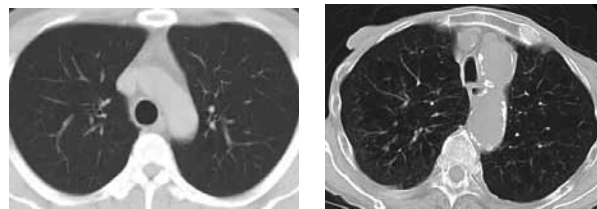
COPD の診断は呼吸機能検査を行うことにより可能です。「努力肺活量」(息を最大限に吸って強く吐きだしたときの息の量)と「1 秒量」(最初の 1 秒で吐きだせる息の量)を測定し「1 秒率」($1 \text{ 秒量} \div \text{努力肺活量} \times 100$)が 70% 未満の場合 COPD と診断されます。

胸部レントゲンは簡便な検査ですが軽症の COPD では異常がはっきりとしないことも多いです。進行した COPD では肺の過膨張所見や横隔膜の平坦化などの所見がみられます。一方、より精密な CT 検査を施行すると異常がとらえやすいこともあります。

◆ COPD の治療

現在のところ COPD を根本的に治療する方法はなく、ゆっくりと確実に進行していきます。しかし軽症のうちに発見し対策や治療を始めれば呼吸機能の低下を遅らせることができます。

たばこをやめられていない人はまず禁煙が第一です。遺伝的にたばこによって肺の破壊がおこりやすい人がおり、家系に呼吸器疾患の人がいる場合はたばこには注意が必要です。また症状や呼吸機能の程度により吸入薬、内服薬等を使用していきます。さらに進行し呼吸不全状態となってしまった場合には在宅酸素療法を用いることもあります。適切な診断により病状に応じた治療を受けることが重要です。



正常な肺の CT (左) と肺気腫の CT (右)

正常な肺に比べて肺気腫の肺は黒っぽくまだらに見えます。肺胞が破壊されている部分は肺として機能できません。進行した肺気腫の所見です。
(呼吸器科 漆原 崇司)

病気のおはなし

ひざの痛み ―変形性膝関節症―

整形外科を受診される患者さんの中で、よく見られる症状の一つがひざの痛みです。そのひざの痛みの原因として最も多い病気が“変形性膝関節症”です。これは長年にわたる負担によりひざの関節軟骨や半月板といった軟骨がすり減り、進行すると関節が変形してしまう病気です。

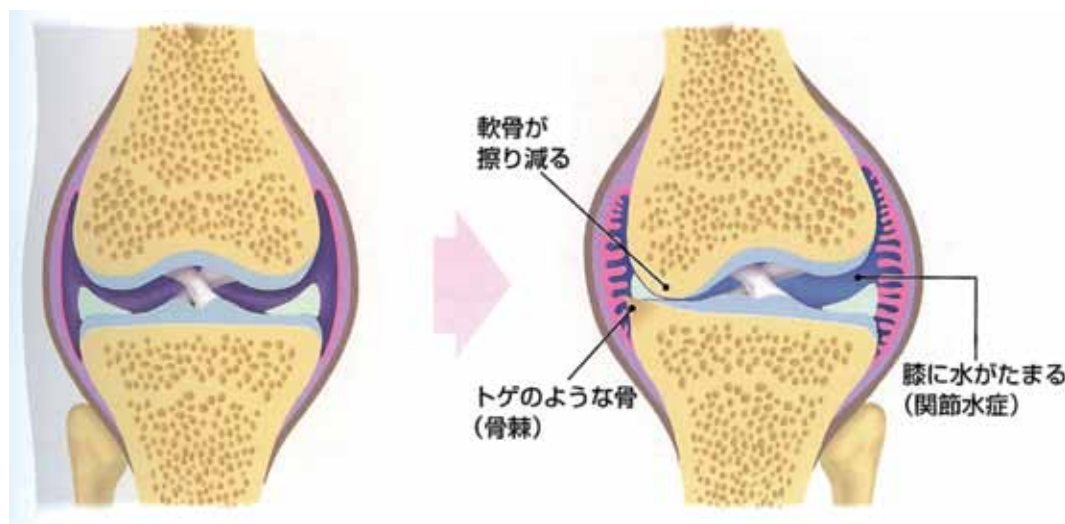
「軟骨がすり減る」という言葉はよく聞かれますが、なぜ軟骨が減るとひざが痛くなるのでしょうか？それを理解するためには軟骨の働きを知らなければなりません。軟骨の働きには大きく分けると2つあると考えられます。1つはひざにかかる衝撃を吸収するクッションの働き、もう一つは骨と骨のつなぎ目である関節を滑らかに動かす働きです。骨は体重を支えるため非常に固く丈夫にできていますが、弾力性がなくまた表面がざらざらしています。そのため体のすべての関節では骨と骨が接触する部分がすべて軟骨で覆われており、骨同士が直接ぶつからないようになっています。これにより骨にかかる負荷を関節の軟骨がクッションのように吸収し、関節を滑らかに動かすことができるのです。

変形性膝関節症になりやすい人の傾向は統計的に分かっています。女性、高齢者、肥満、脚の筋力が弱い、O脚、ひざのケガをしたことがある、若い頃に激しい運動や力仕事をしていた、などです。これらに当てはまる人はひざが痛まないよう日頃から注意した方が良いとかもしれません。歩き始めが痛い、階段の下りがつらい、正座ができない、ひざが腫れているなど、すでにひざの症状がある方は変形性膝関節症が疑われますので、お近くの整形外科での受診をお勧め

めします。

変形性膝関節症と診断された場合どのような治療があるのでしょうか？理想的にはすり減った軟骨を増やして元に戻すことができれば良いのですが、現在の医療では難しいのが現状です。各種サプリメントも販売されていますが、一度減ってしまった軟骨を元に戻すことは科学的に証明されていません。（ある程度の予防、鎮痛効果は期待できると思います。）そのため治療の原則は鎮痛、安静、負担の軽減となります。病院でよく行われる痛み止めの内服薬、貼り薬、注射、電気治療は鎮痛治療です。またサポーターや装具、杖の使用、運動療法は負担の軽減と安静、予防治療と考えられます。このような様々な治療は絶対的なものではありませんが、組み合わせることで一定の効果が得られます。残念ながら治療を行っても痛みが改善せず、日常生活に支障が生じた場合には重症と考えられますので、手術を検討された方が良いかもしれません。当科でも沢山の方々が同様な悩みのために受診されています。まずは原因をよく調べ、適切な治療を行う事が重要です。治療にお悩みの方がいらっしゃいましたら、整形外科を受診してください。

（整形外科 大塚 誠）



医療技術局 リハビリテーション科 —小児から高齢者まで—

当院リハビリテーション科では、脳卒中・大腿骨頸部骨折・パーキンソン病・慢性関節リウマチなど、成人や高齢者を対象としたリハビリテーション治療をおこなっている他に、小児を対象とした小児言語訓練をおこなっています。今回は小児言語訓練について紹介いたします。

小児言語訓練は言語聴覚士1名が対応しています。言語発達の遅れやコミュニケーション・対人関係につまづきのある言語発達遅滞・知的障害・自閉症や、発音の誤りのある構音障害のお子さんを主な対象としています。年齢は3歳～15歳くらいまでで、就学前と小学校低学年のお子さん为中心です。回数はお子さんの状態に合わせて週1回～月1回程度です。また、言語訓練の他にも体が小さく生まれたお子さんの発達の評価もおこなっています。

訓練の内容はお子さんの状態を考えながら、工夫をしています。またお子さんへの直接的な訓練のほかにも、日々の生活で困っていること

などを保護者の方から伺い、解決方法を一緒に考えています。さらに、個室での言語訓練以外にもご希望に応じて、言語訓練に通っているお子さんの保育園や幼稚園・学校などを訪問して、園や学校生活でできる工夫などについてもお話をしています。

今後もお子さんの健全な発達や成長を見守る一員として地域の皆様に貢献できるよう努力してまいります。ご相談などありましたら、お気軽にお声かけください。

(リハビリテーション科 村西 義雄)



看護局 手術室



手術室スタッフは看護師30名、看護助手3名、クラーク1名です。

手術は、泌尿器科を除く12科の外科系手術を行っており、24時間緊急手術に対応しています。1件の手術は、外科系医師数名、麻酔科医師（麻酔科依頼の場合）、器械出し看護師1名、外回り看護師1名で行っています。手術によっては、臨床工学技士が人工心肺を操作したり、手術中の病理検査では病理医師や検査技師が関わっていたり、手術中のレントゲン撮影には放射線技師が関わっていたりします。手術室は閉鎖的ですが、1件の手術には多くの医療スタッフが協同しています。また、手術操作をする為の器械は滅菌処理が必要です。時間外は洗浄滅菌を看護師が行う場合もあ

りますが、通常は中央材料室にお願いしています。

手術室は9室あり、昨年の手術件数は4,337件で、年々増加傾向にあります。曜日ごとに各科の手術枠があり、麻酔科と手術室にて時間調整をしています。定期手術の入室時間は8時40分からです。安全面を考慮し、申し送りホール（手術室入り口）では1名の患者様のみの申し送りを実施しています。また、お話のできる患者様にはお名前と手術の部位を確認させていただいております。

私たちは「周手術期における患者様の安全を守り、手術を円滑に遂行する」を手術室目標に掲げ、常に患者様の安全を考えて行動しています。



「優しい心と穏やかな笑顔」という書が手術室の入り口ホールに掛けてあります。退職された方からの贈り物です。手術を安全に終了させる為に常に真剣勝負ですが、患者様を受け入れる時は、優しい心と穏やかな笑顔で接したいと思っています。手術を受ける際は、私たちがいますのでご安心ください。

(手術室 笹子 由美子)

地域医療センター

◆「訪問看護室」ご存知ですか？

訪問看護室には、訪問看護を専門に行う看護師が4名在籍しています。3名の看護師が主に訪問看護を行い、もう1名は入院患者さまの在宅療養支援（退院準備のお手伝い）も合わせて行っています。

病気や障がいがあっても、住みなれた我が家で、安心して生活したい。家族と一緒に、自分らしい時間を大切に過ごしたい。その思いの実現に向けて、訪問看護師は君津中央病院の患者さまのご自宅に伺い、快適な療養生活が送れるよう、さまざまなお手伝いをしています。

訪問看護で行っていること

・病状観察と健康チェック

血圧や体温などを測り、病気特有の症状の観察やアドバイスをを行います

・医療処置

主治医の指示のもと、栄養や尿の管の交換、床ずれ予防や傷の処置、薬の確認などを行います

・日常生活のケア

入浴や洗髪などの清潔ケア、食事や排泄に関するケアやアドバイスをを行います

・リハビリテーション

体の向きがえ、ベッド上での運動、歩行や日常生活動作の訓練、呼吸リハビリなどを行います

・生活や介護に関する相談

病気、介護、日常生活など、療養生活に関するあらゆる心配事の相談をお受けし、介護サービスなどの紹介もしています

在宅でご家族と一緒に



訪問する時間帯は？

月～金曜日（祝祭日、年末年始を除きます）
午前9時～16時頃まで
（状況で臨時・時間外の訪問があります）

1回の訪問にかかる時間は？

30分～90分位（平均60分前後です）

訪問回数は？

月1回～週2回（月8回）位まで

訪問看護の利用料金は？

1回500円～2,000円位
（保険の種類や自己負担割合で異なります）

在宅で安心して療養できるよう
私たちがお手伝いします。



笑いの絶えない職場です。チームワークもばっちり！

「訪問看護を利用するには、 どうすればいいの？」

訪問看護には主治医の指示が必要です。

- ・ 自宅療養に不安がある方
- ・ 家族だけで介護するのが心配な方
- ・ 医療処置が必要だが通院できない方
- ・ 終末期に家で過ごしたい方

など、訪問看護の利用をご希望の場合は、君津中央病院の主治医または訪問看護室にご相談ください。

在宅療養を希望する方、訪問看護について知りたい方のご相談も合わせてお受けしています。

訪問看護室まで、お気軽にご連絡ください。

（訪問看護室 杉原 幸子）

君津中央病院附属看護学校

君津中央病院附属看護学校 学生募集

当校では7月24日・8月1日、看護師を目指す多くの高校生を初め社会人の方々が参加し、オープンキャンパスを開催しました。

今年は例年の看護技術の体験に加えて「災害看護の模擬授業」も取り入れ盛大に終了しました。

当校は看護師教育3年課程の学校です。卒業すると以下の受験資格が得られます。

- ①看護師国家試験受験資格
- ②保健師学校受験資格
- ③助産師学校受験資格



来年度の入試予定は以下の通りです。

推薦入試：平成22年10月7日

一般入試：1次募集 平成23年1月12日、13日

2次募集 平成23年2月9日、10日

※詳しくは附属看護学校のホームページ

または、0438(36)1071

内線4850 入試係まで問い合わせてください。



君津中央病院ボランティア「ひつじぐも」活動紹介

前号に引き続き、君津中央病院ボランティア「ひつじぐも」の活動を紹介します。今号は、受診援助グループの紹介です。

受診援助グループは、朝8時～11時の外来受付終了頃まで、ほぼ毎日1階の再来受付コーナーにて、来院された患者さまのお手伝いをしています。同コーナーには随時1～2人、活動参加者が複数人の日については、2階眼科外来前に1人立つようにしています。お手伝いの具体的な内容としては、再来受付機の使用方法が分からない方への援助や行き先の案内、2階外来では呼び出し表示に気付きにくい方への援助などです。

また、さまざまな患者さまの声に対応するため、受診援助グループでは、2ヶ月に1度ミーティングを行っています。意見や事例を報告することにより、対応方法の統一を図り、より良い援助ができるよう心がけています。

来院された際に何か困ったことがありましたら、黄色いエプロンを付けて立っておりますので、お気軽にお声かけください。なお、病院の職員ではありませんので、内容によってはお手

伝いできないこともあるかもしれませんが、その点をご容赦ください。

なお、受診援助グループでは一緒にお手伝いしていただける方を募集しています。興味をお持ちの方は、どうぞお気軽にお問合せください。

【問合せ先】 白石（内線6624）

平成22年8月5日（木）に、平成22年度君津中央病院ボランティア表彰式を開催いたしました。

【受賞者】

1000時間活動受賞者	稲村 宗男様（ヘアークット）
500時間活動受賞者	大嶺 公子様（受診援助）、香田 十四太様（受診援助）、椎名 和子様（園芸・図書）、遠田 真理様（園芸・図書）、山口 好子様（園芸・図書）
100時間活動受賞者	高城 千鶴様（受診援助）、松本 秀弘様（受診援助）
ボランティア受賞団体	千葉県立上総高等学校 園芸科様



平成22年度君津中央病院ボランティア（活動）表彰式

大佐和分院よりお知らせ

ドック受付中
0439-65-1251

NST^{*1}...このようなこともしています!【看護部】

大佐和分院に入院される方は、65才以上の患者さまが9割近くを占めています。脳血管障害の既往を持ち、肺炎を繰り返し発症し入院される方は少なくありません（脳血管障害では手足の麻痺といった症状以外にも、食べ物を飲み込む力が障害されることで食べ物が誤って肺に入り、肺炎をおこす事があります）。分院においては、嚥下（えんげ）^{*2}機能低下は多くの方に見られるのが現状です。



看護部では平成19年より摂食嚥下リハビリテーションを行い始め、NSTの一員として看護師も積極的に取り組んでいます。食事形態においては栄養科との連携を随時図り、とろみ食・全体量の細かな変更等に対応して頂いています。毎日の口腔ケアによる保清、間接訓練を行うことで、少しずつではありますが、食事が食べられるようになったり、食事の量が増えたり…とリハビリの効果を実感しています。

月に1回、NST委員会を開き栄養管理をしながら、1人でも多くの方に安全に口から飲食物を摂ることが出来るよう、継続的にかかわっていきたくと考えています。

*1 NSTとは・・・栄養サポートチーム。医師、看護師、薬剤師、言語聴覚士、栄養士などの多職種で栄養管理をするチームのこと。

*2 嚥下とは・・・口の中に入れた食物などを飲み込むこと。

外来診察担当医表

平成22年4月1日

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		備考
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科・小児科	田中 庄司(涼)		田中 北湯口		北湯口 庄司(涼) 三浦		田中 桐谷	庄司(行)	田中 北湯口		
循環器科		山本・藤本・松戸 (交代)									予約制 心臓超音波検査のみ
神経内科									蓋谷		
外科							朱				
整形外科			保住								予約制
皮膚科				稲福・小野 (交代)							
泌尿器科					稲原						予約制
眼科	佐々木	佐々木	佐々木		佐々木	佐々木	佐々木		石渡・古山 (交代)		
人間ドック					田中				山倉		

受付時間
午前 8:00～11:30
午後 12:00～15:00

診療開始時間
午前 9:00～
午後 13:30～

国保直営君津中央病院大佐和分院
富津市千種新田710番地
TEL 0439-65-1251

編 集 後 記

今年の夏は暑かった…それしか記憶に無いような夏でした。暑さで体調を崩された方も多かったと思います。夏に流行(はや)る病気があれば、寒くなると流行る病気もあります。体調を崩しては折角の秋の味覚も冬の味覚も堪能できません。日本の美しい季節の変化を楽しめるように、そして季節の味覚を堪能できるように皆さん体調に気をつけてお過ごしください。これからもクローバーのご愛読よろしくお願い致します。(K.O)